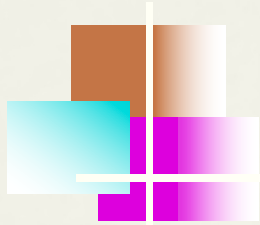


# 現代日本政治論I



三木内閣・福田

浅野正彦

総理大臣	内閣発足日	与党
鳩山一郎	1955.11.22	自民党
石橋湛山	1956.12.23	自民党
岸信介	1957.7.10	自民党
池田勇人	1960.7.19	自民党
佐藤栄作	1965.6.3	自民党
田中角栄	1972.7.7	自民党
三木武夫	1974.12.9	自民党
福田赳夫	1976.12.24	自民党
大平正芳	1978.12.7	自民党
鈴木善幸	1980.7.17	自民党
中曽根康弘	1982.11.11	自民党(+日本自由クラブ)
竹下登	1987.10.31	自民党

## 三木内閣(1974-76)

三木武夫  
《第66代》



明治40年3月17日生  
昭和63年11月4日死去(81歳)  
出生地：徳島



● 日本の政治家  
**三木 武夫**  
みき たけお



内閣官房内閣広報室より  
公表された肖像写真

**生年月日** 1907年3月17日

**出生地** ● 日本 徳島県板野郡御所村  
(現、阿波市)

**没年月日** 1988年11月14日 (81歳没)

**死没地** ● 日本 東京都

**出身校** 明治大学専門部商科卒業  
明治大学法学部卒業

**所属政党** (協同民主党→)  
(国民協同党→)  
(国民民主党→)  
(改進黨→)  
(日本民主党→)  
自由民主党

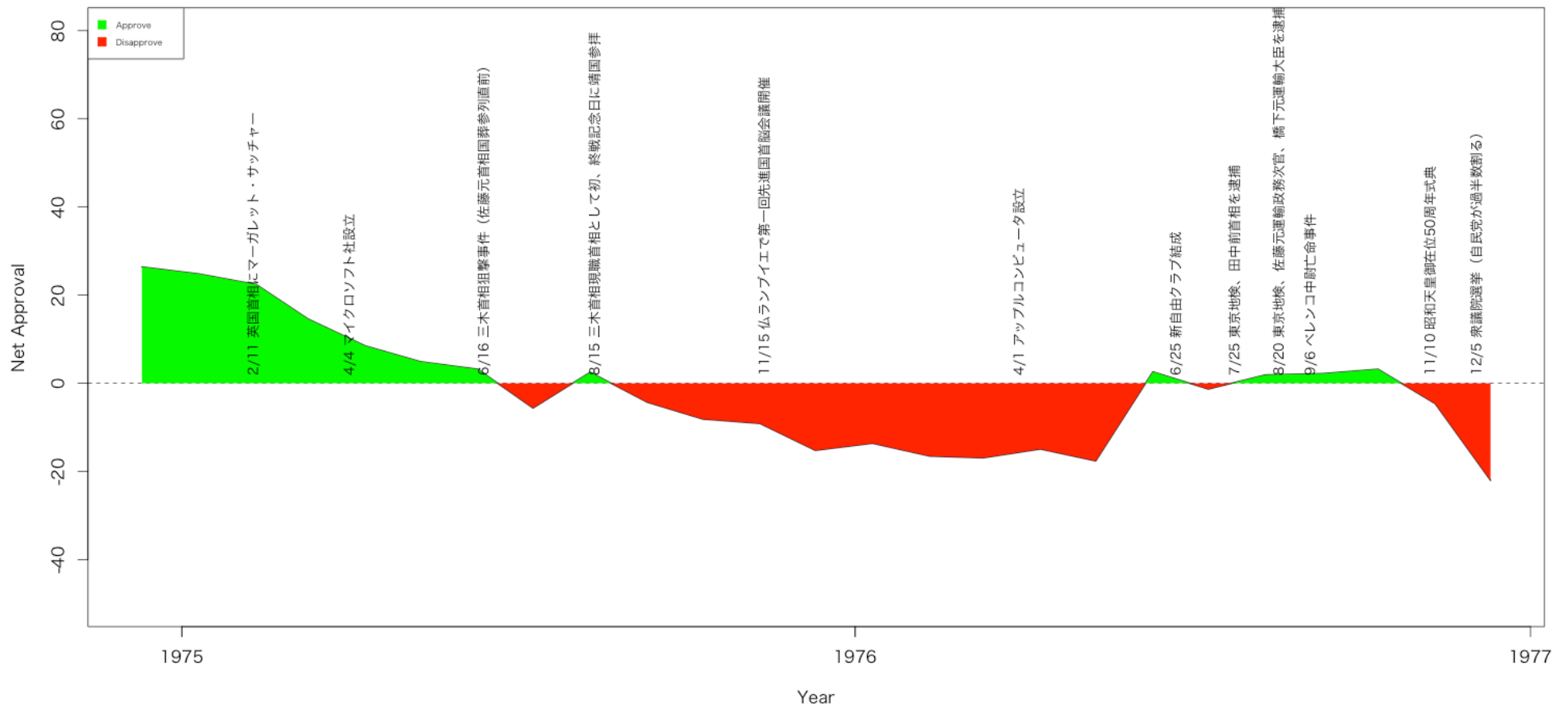
**称号** 正二位  
大勲位菊花大綬章  
衆議院名誉議員  
法学士 (明治大学・1937年)

. list year ku kun mag nocand rank party status wl previous votes voteshare if name == "MIKI, TAKEO", noobs

year	ku	kun	mag	nocand	rank	party	status	wl	previous	votes	voteshare
1947	tokushima	.	5	11	1	k-kyodo	incumbent	win	4	58602	20.7
1949	tokushima	.	5	10	1	k-kyodo	incumbent	win	5	57331	20.1
1952	tokushima	.	5	13	1	kaishin	incumbent	win	6	71713	20.2
1953	tokushima	.	5	11	1	kaishin	incumbent	win	7	54571	16.6
1955	tokushima	.	5	9	1	n-minshu	incumbent	win	8	67849	20
1958	tokushima	.	5	7	1	LDP	incumbent	win	9	92456	26.1
1960	tokushima	.	5	10	1	LDP	incumbent	win	10	64774	17
1963	tokushima	.	5	10	1	LDP	incumbent	win	11	75945	19.1
1967	tokushima	.	5	10	1	LDP	incumbent	win	12	77043	18.9
1969	tokushima	.	5	10	1	LDP	incumbent	win	13	68303	16.8
1972	tokushima	.	5	10	1	LDP	incumbent	win	14	88500	20.9
1976	tokushima	.	5	8	1	LDP	incumbent	win	15	102519	21.9
1979	tokushima	.	5	8	3	LDP	incumbent	win	16	72566	16
1980	tokushima	.	5	8	1	LDP	incumbent	win	17	90544	20.1
1983	tokushima	.	5	10	3	LDP	incumbent	win	18	63891	14.2
1986	tokushima	.	5	8	2	LDP	incumbent	win	19	73834	17.3

# 三木内閣 (1974.12.9 – 1976.12.24)

三木内閣支持率 (時事通信 世論調査 1974 - 1976)





**1974年11月26日、田中首相が辞任声明**

**次の総裁選び・・・難航**

**大平正芳・・・公選を主張**

**福田赳夫と三木武夫・・・話し合いを主張**

**福田の持論「総理・総裁は推されてなるもの」**

**田中のイメージが傷ついていた**

**田中の支持で大平政権を作ることの是非**

田中と福田の対立 → 公選も話し合いも危険

椎名悦三郎を暫定総裁にという案

→ 「行司がまわしを付けている」という理由で却下

椎名が三木を総裁に指名

→ 福田と大平、納得

→ 「晴天の霹靂」(三木武夫)

三木の総裁指名・・・自民党にとって合理的

→ 最も弊害が少ないから





**椎名悦三郎(1898.1.16 – 1979.9.30.)**

**椎名は、日本の官僚、政治家。岩手県水沢町(現:奥州市)出身。**

**自由民主党副総裁として「椎名裁定」を下し、田中角栄の後継に三木武夫を選んだ。**

**東京市長、内務大臣、帝都復興院総裁などを歴任した後藤新平は叔父に当たる。衆議院議員、参議院議員をつとめた椎名素夫は二男。**

## 三木武夫の履歴

**1937年** 総選挙で無所属として当選

**1946年** 協同民主党に加わる

**1947年** 国民協同党の幹部

(協同民主党＋国民党＝国民協同  
党)

**1950年** 国民民主党を結成しその幹部に

## 三木の政治スタンス

①一貫して保守傍流

②主流派と異なる行動

③アンチテーゼは示したが、独自の政治路線を提示せず



反対 →

講和条約

保守合同

安保条約強行採決

権力乱用

大企業の横暴

アメリカ追随

椎名裁定は自民党の挙党一致の論理からでた結論

→ 三木の行動を縛る人事

役職	氏名	年齢	所属派閥
総裁	三木武夫	67	三木派
副総裁	椎名悦三郎	75	椎名派
幹事長	中曽根康弘	56	中曽根派
総務会長	灘尾弘吉	74	無派閥
政調会長	松野頼三	56	福田派
副総理 経済企画庁長官	福田赳夫	65	福田派
大蔵大臣	大平正芳	62	大平派
外務大臣	宮沢喜一	54	大平派
文部大臣	永井道雄	51	非議員



灘尾弘吉



松野頼三



宮沢喜一



永井道雄(1923.3.4-2000.3.18)

永井は、日本の教育社会学者。政治家、永井柳太郎の次男。東京都出身。武蔵中学校・高等学校、京都大学文学部卒。オハイオ州立大学でPh.D.を取得。京都大学教育学部助教授を経て、1957年東京工業大学に移る。1970年、東京工業大学を退職、朝日新聞社論説委員となる。大学紛争の時代、国際基督教大学の事務長だった飯田宗一郎が、八王子に大学セミナーハウスを都内主要大学の学長、総長の協力のもとに始めた時、そこで行なわれた第1回大学共同ゼミナールを主催したり、教育の実際的な改革に精力的に取り組んだ。

1974年、第一次三木武夫内閣で民間から文部大臣として入閣。在任中、主任制の導入、国際連合大学の日本への誘致などに尽力。政界を離れて以降は、朝日新聞社へ復社して客員論説委員、国際連合大学学長特別顧問、国際文化会館館長などを勤めた。

## 派閥別内訳

田中派、大平派・・・4

福田派・・・3

石井派、三木派・・・各2

中曽根派、椎名派、水田派、船田派、民間人・・・各1

## 三木内閣の政策(内政の三大政策)

### 1. 政治資金規正法の改正

(1) 企業や労働組合から政党への献金 → 最大一億円

(2) 派閥や個人への献金 → 最大五千万円

(3) 政党の党費や会費 → 報告義務



## 公職選挙法改正案 ビラ配布の規制・選挙区と定数の変更

政治資金規正法に対して自民党内の反応は冷ややか

← 議員自らの立場を弱めるから

しかし、選挙二法は可決

企業 → 政党への献金額 → 減少

そのかわり、  
政治資金パーティが発展 → 株や土地操作が広まる

## 2. 独禁法の改正

企業の価格カルテルと反社会的行動 → 厳しく規制し、制裁

企業の自由な経済活動を規制する

→ 自民党には利益にならない

景気が低迷 → 自民党内外から批判

→ 法案は見送り

## 3. 総裁公選制度の改正

## 三木政権の政策転換＝主流派との妥協

1. 日台空路の再開・・・親台派の要求を部分的に承認
2. 靖国神社参拝  
・・・1975年8月15日、三木首相は私人として靖国を参拝

戦後の現職総理大臣としては初めて

1975年11月、第一回先進国首脳会議（サミット）に参加  
（フランスのランブイエ）

## ロッキード事件

**1976年2月2日、アメリカ上院の多国籍企業小委員会で、ロッキード社の対日贈賄工作が明らかになる**

**田中角栄と親しい小佐野賢治、児玉誉士夫（右翼の大物）の名前が出た**

**国会は関係者の証人喚問**

**三木政権 → 徹底究明を目指すと表明**

**2月23日、アメリカに資料提供を要請する決議を国会で決議  
三木首相 → フォード大統領に親書 → 資料の提供を求めた**

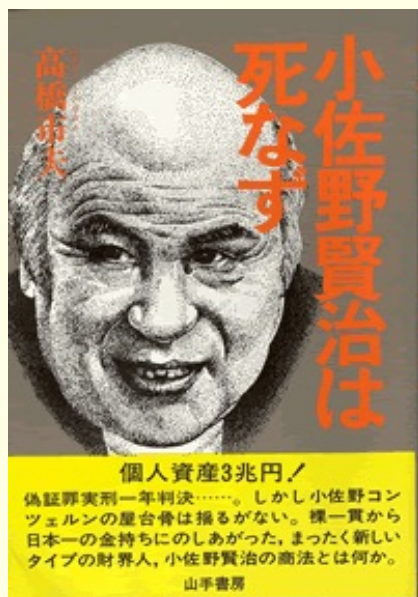
**→ 自民党内から批判が噴出**

ロッキード代理人：児玉誉士夫(1911.2.18-1984.1.17)



児玉はすでに**1958**年からロッキード社の秘密代理人となり、日本政府に同社の**F-104**“スターファイター”戦闘機を選定させる工作をしていた。児玉が働きかけた政府側の人間は自民党の大野伴睦、河野一郎、岸信介らであった。**1960**年代末の契約が更新され、韓国も含まれるようになった。児玉は韓国の朴政権にロッキード社のジェット戦闘機を選定するよう働きかけていたのである。韓国に対する影響力の大きさが窺える。しかし、この頃、大野も河野も死亡しており、新しい総理大臣の佐藤栄作や田中角栄にはあまり影響力をもっていなかった。

そこで児玉は田中との共通の友人、小佐野賢治に頼るようになった。小佐野は日本航空や全日本空輸の大株主でもあり、ロッキード社製のジェット旅客機の売り込みでも影響力を発揮した。**1972**年に田中角栄が首相になると児玉の工作は効を奏し、全日空はすでに決定していたマクドネル・ダグラス社製の**DC-10**型旅客機の購入計画を破棄し、ロッキード社の**L-1011**トライスターの購入を決定。この結果ロッキード社の日本での売上は拡大した。



## 国際興業社主 小佐野賢治 (1917～1987)

1917(T6)年02月15日山梨県東山梨郡山村(現在・勝沼町山区)で貧農家の小佐野伊作とひらのの長男として生まれた。1940(S15)年、東京・芝で自動車部品業を創業。1945(S20)年、ホテル業務開始(熱海ホテル、山中湖ホテル、強羅ホテル)。1946(S21)年、大阪支店を開設。1946(S21)年、乗合・観光バス事業に進出。1947(S22)年、社名を国際興業株式会社とする。1949(S24)年、タクシー、ハイヤー事業に進出。1953(S28)年、輸入自動車販売開始。1959(S34)年、商事部門・油圧機器取扱を開始、不動産業に進出。1960(S35)年、神戸支店開設。1961(S36)年、旅行業に進出。1962(S37)年、ゴルフ用品取扱開始。1963(S38)年、ハワイでホテル業に進出、ホノルル支店開設。1973(S48)年、シェラトン・パレス・ホテルを取得。1974(S49)年、シェラトン・ワイキキ、ロイヤル・ハワイアン、シェラトン・マウイの3ホテル取得。1976(S51)年ロッキード事件により衆議院予算委員会で丸紅、全日空関係者とともに証人喚問される。1977(S52)年、国民銀行を傘下に。1987(S62)年逝去。

ビデオ:「1975新自由クラブ結成・田中釈放」



**椎名副総裁が田中角栄、大平正芳、福田赳夫と個別に会い、  
三木の退陣について協議  
(＝第一次三木下ろし)**

### **三木首相の演説**

**「真相究明が核心に入った今、政局を混乱させるのは許されない。自分はその責任・使命を決して途中で放棄しない」**

**→ ロッキード事件の徹底究明への強い意志を表明**

**1976年7月27日、田中角栄逮捕  
8月17日、田中角栄釈放**

**→ 自民党内で挙党体制を確立するための両議員総会開催の  
署名運動**

**衆参両院議員393名中277名 (70%) が参加**

**→ 三木内閣の閣僚20名中15名が参加**

**8月19日、挙党体制確立協議会(挙党協)を結成**

**挙党協・・・三木内閣の辞職を要求**

**三木首相**

**・・・9月10日の閣議で16日に臨時国会を召集する決定しようとした**

福田副総理が署名すれば・・・

→ 挙党協の15人の閣僚も署名 → 三木首相の勝ち

福田副総理が署名を拒否すれば・・・

→ 挙党協の15人の閣僚も拒否

→ 反対閣僚は更迭

→ 国会召集

→ 冒頭解散

→ 分裂選挙

「一日だけ決定を延期しよう」という提案 → 対決は回避

挙党協は一步後退

→ 臨時国会では懸案を処理

→ 解散は行わず

## 三木首相・・・国会で灰色高官を公表

時効不起訴の佐々木秀世(大平派)と加藤六月(福田派)

→ 三木首相は挙党協から強い批判を浴びた

## 総選挙結果 (1976年12月)

自民党は単独過半数を初めて割り込む  
**249議席**(追加公認を入れると**260議席**)

選挙法改正(定員**491議席** → **511議席**)  
→ **1976年6月**に離党した新自由クラブは**17名**を当選

ビデオ:「1976総選挙・自民敗北」

## 三木首相のもくろみ

**270議席を確保すれば → 政権を継続**

各常任委員会の多数を占める安定多数・・・**271議席**  
**6月17日、三木首相は退陣の意志を表明・・・「私の所信」**

- 1. ロッキード事件を徹底的に究明 → 金権体質と派閥抗争を一掃**
- 2. 進歩的国民政党としての原点に立つ → 長老政治の体質改善**
- 3. 全党員参加による総裁公選制度**

## 福田内閣(1976-78)

福田赳夫

《第67代》



明治38年1月14日生  
平成7年7月5日死去(90歳)  
出生地：群馬



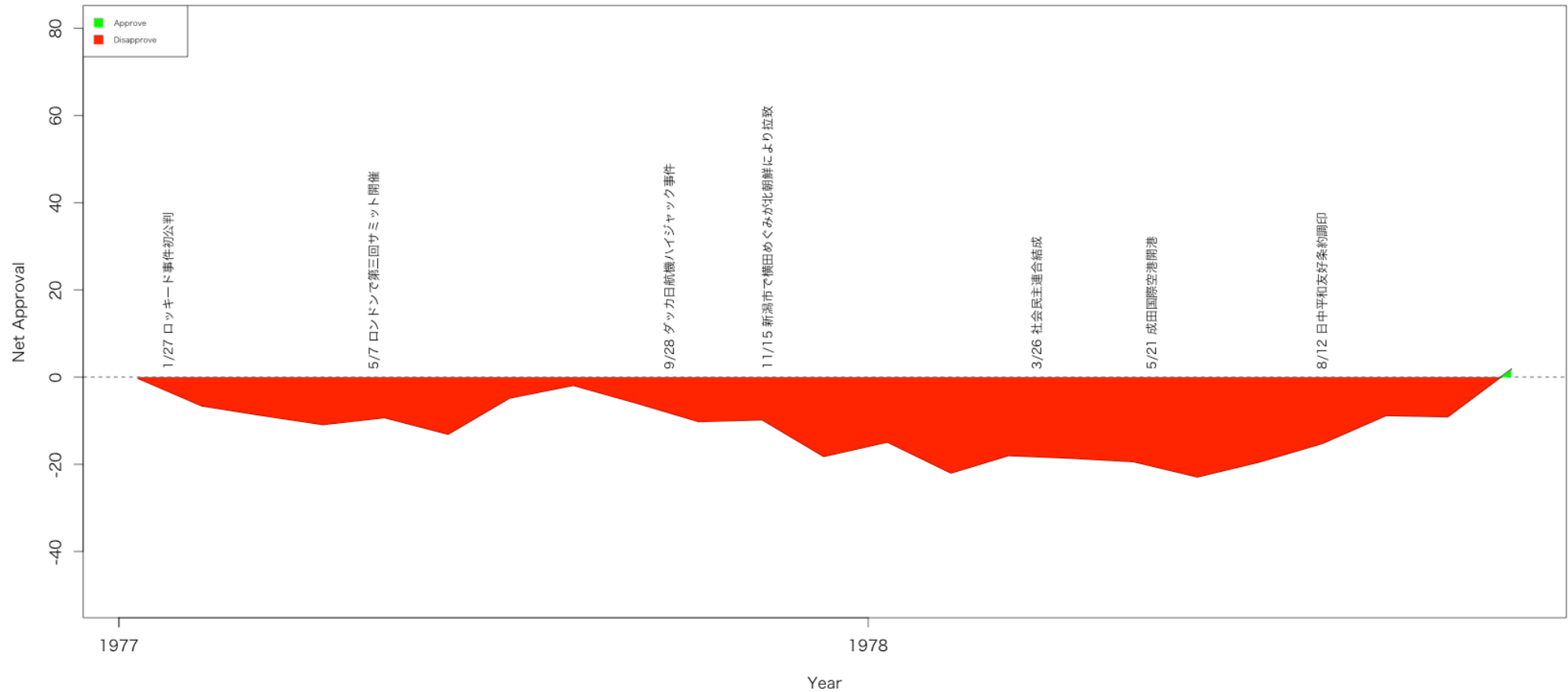


. list year ku kun mag nocand rank party status wl previous votes voteshare if name == "FUKUDA, TAKEO", noobs

year	ku	kun	mag	nocand	rank	party	status	wl	previous	votes	voteshare
1952	gunma	3	4	10	2	independent	challenger	win	1	46531	14.4
1953	gunma	3	4	7	4	independent	incumbent	win	2	52665	16.3
1955	gunma	3	4	6	2	n-minshu	incumbent	win	3	61090	19.3
1958	gunma	3	4	7	1	LDP	incumbent	win	4	88027	27.2
1960	gunma	3	4	7	1	LDP	incumbent	win	5	92099	29.1
1963	gunma	3	4	6	1	LDP	incumbent	win	6	95378	29.3
1967	gunma	3	4	6	1	LDP	incumbent	win	7	100573	29.7
1969	gunma	3	4	7	2	LDP	incumbent	win	8	99466	27.4
1972	gunma	3	4	5	1	LDP	incumbent	win	9	178281	46.2
1976	gunma	3	4	6	1	LDP	incumbent	win	10	148736	36.3
1979	gunma	3	4	6	1	LDP	incumbent	win	11	122542	30.2
1980	gunma	3	4	6	1	LDP	incumbent	win	12	128542	31.6
1983	gunma	3	4	5	1	LDP	incumbent	win	13	129100	32.9
1986	gunma	3	4	5	1	LDP	incumbent	win	14	120500	29.4

# 福田内閣 (1976.12.24 – 1978.12.7)

福田内閣支持率 (時事通信 世論調査 1976 - 1978)



**1976年12月、福田赳夫は国会で首相に指名された**

**国会での投票 → 衆参両院とも過半数を一票だけ上回った  
…厳しい船出**

**福田は大平に「二年で政権を譲る」と密  
約**

**総理総裁分離論(総総分離)に近い形が実  
現**

**自民党務は幹事長の大平正芳に任せる、と密約**

**従来は、総理総裁一体論(＝政党政治の原則)**

**…最高権力としての総理と総裁は一体であるべき、という考え方**

役職	氏名	年齢	所属派閥
総裁	福田赳夫		福田派
幹事長	大平正芳		大平派
総務会長	江崎真澄		田中派
政調会長	河本敏夫		三木派
外務大臣	鳩山威一郎		
環境庁長官	石原慎太郎		

## 河本敏夫



1911年兵庫県相生市生まれ。旧制龍野中学(現・兵庫県立龍野高等学校)から旧制姫路高校(神戸大学の前身校)にトップの成績で入学。マルクス主義の影響を受けて反戦運動に参加し、1930年退学を余儀なくされた。炭坑夫や職工などを経て日本大学法文学部に入学した。在学中に義兄らと三光汽船(当時、三光海運)を設立、卒業後の1937年から社長となる。1949年の衆議院議員総選挙で旧兵庫4区から初当選。以後、連続17回当選。

1968年に佐藤栄作内閣の郵政大臣として初入閣した後、政界の玄人筋からは、三木武夫派の資金調達役として知られていたが、存在が一躍注目されるようになったのは三木内閣で通産大臣に就任してからである。福田赳夫内閣でも通産相、鈴木善幸、中曽根康弘両内閣で経済企画庁長官などを歴任した。自民党でも昭和51年(1976年)、昭和53年(1978年)の2度にわたって政調会長を務めた。自民党屈指の政策通、経済通として知られ、三木に批判的な立場だった大平正芳や後藤田正晴にも「一角の人物」と一目置かれた。政策としては積極財政論を唱えることが多かった。

1978年の自民党総裁予備選挙に初めて出馬するが、大平、福田、中曽根に続く4位で敗れた。

## 内閣総理大臣コメント

河本敏夫前衆議院議員の御逝去の報に接し、心より哀悼の意を表します。

河本敏夫氏は、昭和24年以来、連続17回衆議院議員として当選され、この間、通商産業大臣、郵政大臣、経済企画庁長官、沖縄開発庁長官などを歴任され、国政に多大の貢献をなさいました。

特に、昭和49年の三木内閣において通商産業大臣在職中は、中東諸国を訪問し、石油危機後の我が国の石油の安定供給確保に向けて尽力されるとともに、ビジネスの経験を活かして、石油危機後の我が国経済の回復に力を振るうなど、格段の活躍をなされたことは、多くの人々の記憶に刻まれております。

日本を愛し、戦後の日本経済の発展に大きな力を注がれた指導者の訃報に接し、悲しみの念を禁じえません。

ここに心より御冥福をお祈り致します。

平成13年5月24日

内閣総理大臣 小泉純一郎



鳩山 威一郎(1918.11.11-1993.12.19) は、日本の政治家。鳩山一郎の長男として生まれる。東京大学卒業後、大蔵省入省。理財局長、主計局長、大蔵事務次官と大蔵官僚のエリートコースを歩む。退官後の昭和49年参議院議員に当選する。福田内閣の外務大臣。妻安子はブリヂストン創業者石橋正二郎の長女。鳩山邦夫、鳩山由紀夫は子息。平成4年引退。

ウィスキーの水割りを作るのが非常にうまく、大蔵官僚時代は同僚や後輩たちを家に呼び、その水割りをふるまった。その水割りのことを、彼らは「ポッポスキー」と呼んでいた。



派閥別内訳

大平派・・・4

福田派、田中派、中曽根派・・・3

三木派、無派閥・・・各2

椎名派、水田派、船田派・・・各1

三木首相の「私の所信」を継承 → 党改革実施本部が作られた

その提案

1.総裁候補決定選挙(総裁予備選挙)制度の導入

→ 1977年4月の党大会で正式に決定

2. 派閥解消

→ 全ての派閥が一応看板を下ろしたが、形だけのもの

権力を目指して争う派閥を好まなかった福田首相の派閥解消の主張は本気

**「さあ働こう内閣」**

**てきぱきと実務をこなしたが、  
党内基盤を大平幹事長に握られ + 与野党伯仲**

**→ 困難な政治運営**

**1977年度予算**

**福田は元来健全財政論者**

**(田中内閣では大蔵大臣としてインフレ克服を実現)**

**景気浮揚策を求める人も多かった**

**福田はもう一年緊縮予算を採用するつもりだった**

**伯仲国会で一兆円減税の政府提出予算案が提出**

**予算委員会は与野党逆転  
(与党24人、野党25人、委員長は除く)**

**自民党は譲歩 → 7千億円減税に妥協**

**・・政府提出の予算が議会で修正されたのは戦後初めて**

## 福田内閣の外交

福田首相が外交に力を入れた背景

1. 日本の世界におけるプレゼンスが増大
2. 伯仲国会での動きの取れない脆弱な政府

**1977年5月、ロンドンサミットに参加**  
福田首相は国際強調の重要性を力説

## 東南アジア訪問(マニラでの演説)・・・福田ドクトリン

- (1) 日本は軍事大国にならず、平和に徹する立場から東南アジアと世界の平和と繁栄に貢献する**
- (2) 社会・文化など広い範囲で真の友人として、心と心が触れ合う相互信頼関係を築く**
- (3) 日本はインドシナ諸国とは相互理解に基づく関係の醸成を図り、東南アジア全域における平和と繁栄の構築に寄与**

**1977年7月、参院選・・・現状維持**

**1977年8月、福田の住宅省と資源省の案がつぶされる**

建設省と国土庁を合体再編 → 住宅省  
通産省資源エネルギー庁を改組 → 資源  
省

**しかし、自民党と官僚は大反対 → 福田首相の計画は挫折**

**党内基盤が脆弱な福田内閣が政権基盤を強める手段  
→ 解散・総選挙**

福田が総選挙で勝利すれば  
→ 1978年の総裁選挙で福田が勝利する可能性が高い

自民党の大平派などの派閥  
→ 福田首相の解散を阻止しようと画策

福田が強引に解散をしようとしなかった理由

→ 総裁公選に勝てると思っていたから

背景:

誠実に正攻法で課題に取り組む福田内閣に国民は好感をもつ

→ 内閣支持率が上昇  
「全国津々浦々から福田福田の声があがっている」(福田首相)

大平正芳は最後まで密約の禪定を信じていた



総裁選挙結果・・・予備選で大平正芳が一位

かねてから「予備選で二位になったものは一位に譲るべきだ」と言っていた福田赳夫

福田は予備選だけで総裁選を辞退